

『本人の思いの意味を知る』

～その意味をどう共有するか～

◆日時：2013年10月12日(土) 13:00～17:00 (12:30から受け付けます)

◆会場：港区立障害保健福祉センター(ヒューマンぷらざ) 7階 竹芝小ホール
(港区芝1丁目8番23号 電話：03-5439-2511)

◆実践報告1：『安心できる関わりがもたらす子どもの心の変化』～ある激しい行動をみせていた子どもが保育園と児童発達支援センターの個別の支援を続けることで人を信頼し、変わって行った様子～
松林孝典氏、高橋涼子氏 翔の会(茅ヶ崎市)

◆実践報告2：『「今月のベスト支援」を通じた支援実践共有化の試み』
小林博氏 山口茜氏 藤沢育成会・湘南セシリア(藤沢市)

◆バズセッション：参加者全員によるグループワークになります。

◆司会：坂田晴弘(国分寺障害者センター)

◆コーディネーター：本庄一聖(武蔵野)、藤内昌信(だれもがともにネットワーク)、金沢信一

◆まとめ 安藤真洋(武蔵野)

◆参加費：サポート研会員は無料 それ以外の方は1,000円(当日徴収します)

会場の定員は70名です。定員になり次第締め切りますので必ず事前の申し込みをお願いいたします。

開催趣旨

支援者が知的障害や自閉症と言われる人への支援を行うにあたって、支援者が本人の思いをより具体的に、深く受けとめることが出来なければ本人とのコミュニケーションは成立しません。しかし、支援者が本人の思いを受けとめることは思ったほど簡単ではありません。支援者の専門的知識がかえって本人に対する思い込み、決めつけなどの分かりにくさをつくり、素朴な理解を妨げ、ひとつ間違えれば本人を害することにもなりかねません。仮にその人がことばを言うことが出来ても支援者にはその意味が分かりにくいことが起こります。そこで支援者はことばだけではなく表面に表された行動、表情、感情、背景となるその人の認知する環境や状況、これまでの家族との暮らしの歴史、内面にある他者との信頼-非信頼の体験、今まさに向き合う支援者について感じられるもの、その葛藤など相互主体的な関係にも着目し、本人が自己や他者、外界に向き合う際の思いを支援者がどう理解し、どう受けとめ、支えているのかが問われます。

サポート研東京セミナーでは現場からの支援実践の報告から支援の理解を試みます。他の支援現場では、支援はどう行われているのでしょうか。本人が支援者によりどう受けとめられ、それを他の支援者がどう考えるか。当日は、支援現場からふたつの生々しいプレゼンテーションをしていただき、それを参加者が共有し、信頼出来るコーディネーターのアドバイスを聞きながら、さらに議論を深め、支援の理解を深めていきます。今年は、さらにその方向性をより明確にし、グループワークを用い、参加者の活発な意見をいただきます。支援のより深い検討と理解、そのような議論の出来る支援のチームづくりの参考となる研修会を目指したいと思います。ぜひ、ご参加ください。

◇申し込みアドレス support-ken@forest.ocn.ne.jp

(お名前、会員あるいは非会員、所属、連絡先を記載してください)

◇申し込みファクシミリ 0467-54-5498 翔の会村尾宛

(この用紙のままファクシミリしてください)

会員 ・ 非会員 (してください)

お名前	
所属	
連絡先	

